

菓子・食品・パン関連資材専門紙 流通記者会加盟紙  
**菓業食品新聞**

The Journal of confectionery

URL:http://okashi.info e-mail:okashi@nespe.com

バラエティ豊かなラインナップ

**チョコエッグ**

本物のおいしさ

**セコイヤチョコレート**

フルマ製菓株式会社

〒544-0023 大阪市生野区林寺6-7-22

**小学生、就きたい職業**

	小6男子	新小学1年男子
1位	スポーツ選手	スポーツ選手
2位	研究者	警察官
3位	エンジニア	運転士・運転手
4位	ゲームクリエイター	消防・レスキュー隊
5位	医師	TV・アニメキャラクター
	小6女子	新小学1年女子
1位	保育士	ケーキ屋・パン屋
2位	教員	芸能人・歌手・モデル
3位	看護師	看護師
4位	薬剤師	花屋
5位	動物園・遊園地	教員

今年の新小学1年生「スポーツ選手」、女子が、将来就きたい職業の「ケーキ屋・パン屋」と1位は、昨年同様で男子になった。

男女共に人気が高いのが「警察官」で、男子は2位、女子は7位。女子は「ケーキ屋・パン屋」の1位は長年続いており、全体の30%を占め、そのうち2.9%が「パティシエ」も高くなった。また、男子は「ムゲン」が9位となっ

**3面大町、日本一のだがし売場**  
**6〜8面ANKA菓子生産量**  
**12面京菓工組青年部定時総会**

**職業アンケート**  
**小1女子、「ケーキ屋」首位**

ゲームクリエイターなど「ゲーム関係」女子は「獣医師」が14位で、前年からは大きく順位を上げた。男子は「ス」の、男子1位「スポーツ」が1位に「保育士」が9位に上昇した。小6女子では、「ケーキ屋・パン屋」は7位となり、小学校生活で知ることとなり、人とのふれあい、支えの好奇心や探究心が育まる教育・医療分野が上位が高まっているとみられる。また、「宇宙飛行士」が9位に上昇した。

子どもの数を年齢3歳階級別にみると、12〜14歳が342万人(総人口に占める割合2.7%)、9〜11歳が321万人(同2.5%)、6〜8歳が318万人(同2.5%)、3〜5歳が316万人(同2.5%)、0〜2歳が307万人(同2.4%)となっている。

これを中学生の年代(12〜14歳)、小学生の年代(6〜11歳)、未就学3つの区分で見ると、その1を超えていたが、第2015年の1億2700万人に比べて3901万人減少するが、出生率向上や平均寿命の伸びを反映して5年前の推計より増した。平均寿命は、男性84.95歳、女性91.35歳にまで伸びると推測。

**男女別子どもの数**

		平成28年	平成27年	対前年増減数
		4月1日現在	4月1日現在	
子どもの数	男女計	1605	1620	-15
	男女	822	830	-7
(万人)	人口性比	105.1	105.0	0.1
	男女計	12698	12713	-14
総人口	男女	6176	6182	-5
	人口性比	94.7	94.7	0.0
総人口に占める子どもの割合(%)		12.6	12.7	-0.1

割合2.7%、64.0%、62.3%、9%となっている。子どもの割合(総人口に占める子どもの割合)は、昭和25年には総人口の3分の1を超えていたが、第2015年の1億2700万人に比べて3901万人減少するが、出生率向上や平均寿命の伸びを反映して5年前の推計より増した。平均寿命は、男性84.95歳、女性91.35歳にまで伸びると推測。

厚労省推計総人口50年後、8808万人

厚労省は、50年後の総人口が8808万人に減少すると推計を発表。2015年の1億2700万人に比べて3901万人減少するが、出生率向上や平均寿命の伸びを反映して5年前の推計より増した。平均寿命は、男性84.95歳、女性91.35歳にまで伸びると推測。

**昭和50年以降減少続く**  
**総人口の12.6%に留まる**

平成28年4月1日現在における子どもの数(15歳未満人口。以下同じ)は、前年に比べ15万人少ない1605万人で、昭和57年から35年連続の減少となり、過去最低となった。男女別では、男子が822万人、女子が782万人となっており、男子が女子より40万人多く、女子100人に対する男子の数(人口性比)は105.1となっている。

昭和50年から42年連続で低下した。同割合が一番高いのは沖縄県で、最低は秋田県。東京神奈川愛知、大阪だけが百万人を超えている。また、同割合を諸外国(人口4千万人以上)と比べると、2次ベビーブーム期(昭和40年代後半には第2次ベビーブーム期(昭和46〜49年)の出生児数。

平成28年15歳未満の子ども人口  
**1605万人**  
 昨年比  
**15万人減**  
 総人口比、42年連続で低下

の増加によってわずかに上昇したものの、昭和50年から再び低下を続け、平成9年には65歳以上の人口の割合(15.7%)を下回って15.3%となり、28年は12.6%(前年比0.1ポイント低下)で過去最低となった。

なお、子どもの割合は昭和50年から42年連続で低下した。同割合が一番高いのは沖縄県で、最低は秋田県。東京神奈川愛知、大阪だけが百万人を超えている。また、同割合を諸外国(人口4千万人以上)と比べると、2次ベビーブーム期(昭和40年代後半には第2次ベビーブーム期(昭和46〜49年)の出生児数。

SHOENKI MONOHAZUNU

fettuccine  
 フェットチーネグミ gummi

GENERATIONS from EXILE TRIBE